

たまむらまさとし
慶應義塾大学総合政策学部 教授
慶應義塾大学総合政策学部卒業。同大学院
政策・メディア研究科博士課程、千葉商科大学
政策情報学部助教授等を経て現職。博士（政
策・メディア）。内閣官房地域活性化伝道師、
JICA業績評価アドバイザー、新潟市・横須賀市・
天草市・鈴鹿市・市原市・長島町・大山町・大崎
町などのアドバイザー・専門委員を兼務。専門分
野はソーシャルマーケティング、公共経営など。



キルギスのショルブラク村での一村一品の活動



「ソーシャルの時代」の日本のチカラ

社会は

「つながりのネットワーク」

ソーシャルとは、一般に「社会の」「社会的な」と訳されますが、「つながり」「世間」という意味をもちます。福澤諭吉は、social あるいは society を、「人間交際（じんかんこうさい）」と訳していました。人のつながりや絆、ネットワーク、やりとり（交際）を意味する言葉として訳したのです。

実際、世の中は、人びとの「つな

がり」が重層的に連係する「つながりのネットワーク」で成り立っています。たとえば、ご近所のつながり、同じ趣味やフアンのがり、企業や組織という働く人びとのがり……。社会とはこういった、多種多様な「つながりのネットワーク」が幾重にも積み重なりあったものです。そして、重層的な「つながりのネットワーク」の連鎖のなかで人びとは活動し、また、そのネットワークがよりよい方向で機能するように、社

会のさまざまなシステム（制度・組織・役割・サービスなど）はつくられています。

日本で培ってきた

「つながりのチカラ」が
国際協力を支える

日本の国際協力の多くの現場では、資金や技術を提供するのみならず、本質的な課題解決へと前進するよう、

さまざまな実績や経験を持つ専門家、草の根技術協力や中小企業海外展開支援事業などの実務家、青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・JICAのスタッフなどが、相手国の関係者に寄り添いながらともに試行錯誤をしています。その際には、ひとりひとりの活動のみならず、その所属組織や日本での「つながり」を活かした活動も行われています。

日本の人が現場に入り、国内のつながりも活かしながらとともに試行錯誤すること、開発途上国の課題に取り組む「つながりのネットワーク」ができていく、そういった実践や挑戦をくり返しています。

私はその実践に共感し、国際協力の現場での日本の自治体や中小企業などによる活動を徹底的に調べてみると、自ら世界各地を回りました。気づいたら、ここ数年で21の途上国・約120案件やJICAの全ての国内拠点（15か所）を訪問し、自治体や団体、中小企業などが醸成してきているつながりの実態を調査させていたっていました。インドネシアの市民警察



活動やKOBAN（交番）、キルギスやエルサルバドルでの一村一品プロジェクト、リサイクル率11年連続日本一の鹿児島県大崎町によるインドネシアへのリサイクル技術の提供、カンボジアで安全で適正な価格の水の安定供給を実現した「ブノンペン」の奇跡」と呼ばれる水道公社の改革、スリランカにおいて内戦や災害の地とのつながりをつくるサリールサイクルプロジェクト……などです。

たとえばインドの首都デリーでは、街路にはごみがあふれています、ひとたび地下鉄の駅構内に降りると景色は一変します。トイレも綺麗に掃除され、ホームでは整然と列をつくって電車の到着を待つ人々。混沌とした世界にこうした「秩序」をもたらしたキッカケは、実は日本の国際協力でした。

ブラジルのサンパウロでは、交番の導入が進み、平和な日常が実現。世界有数の犯罪発生率の国であるブラジルに「治安」をもたらしたキッカケは、日本からの国際協力による「交番」の輸出でした。

こういった活動では、その技術協力や施設の展開のみならず、課題を取り巻く「つながりのネットワーク」を醸成し、またそれを有効に機能させる日本流の国際協力が展開されていました。

途上国で高めた
「つながりのチカラ」が
日本国内での企業活動や
地域にも効果をもたらす

日本の「社会」という「つながりのネットワーク」を基盤に、そのネットワークのチカラや、そこで構築してきたさまざまなシステムや手法を活かしながら、効果的な国際協力を展開していく、また、日本の人々と開発途上国の人々が影響しあいながら、途上国の開発課題に取り組んでいく——日本が関わる国際協力の現場では、そういった「つながりのネットワーク」づくりが行われています。そういったアプローチは、途上国で成果を出すだけでなく、支援に取り組む日本国内の企業や組織・地域の「つながりのネットワーク」のチカラをも高めることになり、企業の本業や地方創生、さらには日本の課題解決にもつながっていく新機軸をもたらすことにもなります。

参考図書 出典「ソーシャルの時代」「つながりのチカラ」が革新する企業と地域の価値共創（CSV）戦略（玉村雅敏 編著 産学社、2016年）



自発的な協力や連携を生み出すソーシャル・キャピタルを醸成し、つながりのネットワークで社会を変える。CSV・ワークプレイス・地域戦略・地方創生・国際協力などを事例とともに解説。

インドネシアの交番に集まる自衛団。
市民警察活動などの影響で住民による活動も広がった